

珍奇物語

初編

下

特 特
^ 24
1951
2



特

1951
2止



辨奇蒙惑 珍奇物語初編下

東江樓主人 纂輯

世界中の異風

世界中めて人民の種類と土地の模様と寒
暖の異同とふよろろ其衣食風習もかのく
異ふりといへども就中奇とをなす者日本
婦人の廣帯と西洋婦人の廣袴と支那婦人

の小足等こあしらうふれなり。之を世せ界かいの三奇さんき風ふうといふ。○日本にっぽんの婦人めいじんも幅あし一尺余いちせきよ。長さ一丈許いちぢょうこの廣ひろさかびと腰こしは巻まきつけふれと後腰うしろこしめてむとび。藝妓げいきの如ごときる。女端めいたんと足のあうねどゆと垂たるり。此こゝあり。婦人めいじん嫁入よめいれたる乃すなはちは合兼あひりといふ齒はを黒くろく。眉毛まゆげと剃却そり。天あま然ぜんの容貌くわうぶつを変かえず。○西洋せいやうの婦人めいじんもその廣ひろさ二段にど。あとは三段さんどふひだを付つけたる袴はかまの如ごとき

きものを穿すく。其長ながきあとの後うしろの方かたら一尺許いちせきこ地ちとさるもの有り。且また綱つなの如ごとき物を被かりて面部めんぶつを蔽おほひ。耳みみは穴あなと穿すて掬く飾しやくと懸かる。また奇きとりゆ。○支那しなの婦人めいじんも足の小ちひさるを貴たかび。就中しゅうちゅう貴家きけをてる。嬰兒あやうごのとたより女子おんなは足あしは模形もがたをそめて之これを大おほひなり。之これを故ゆゑに足の形かたちは殆たいていど馬うまの蹄かかとの如ごとく。獨ひとりり自みづから歩行あゆむるや甚たゞど軽かろく。大抵たいていは人の

支那の婦人



印度の婦人



西洋の婦人

日本の藝妓



肩かたふ據よて歩あ行ゆす。世よ界か
 中ちゆうは異い風ふう多おほしとい
 へども。就すなは中ちゆうあれはハ
 天あま稟れの身み体たいを残のこのふ
 の惡あく風ふうと云いふべし



支那の婦人足の形

○其外そのほか奇きある風習ふうじゆ多おほき
 内うちを耳みみ插さと鼻はなに刺さるやあるあり。其容貌そのようちゆう
 實じつ小奇せうきとりつゝる。まゝと印度いんどうめをる人ひと民たみ一いつ

般はんふ神しん仏ぶつと信しん仰やうし。色しき々の偶ぐ像ざうを作つくりて之これ
 と号なづ常じょう一いつ業ごうを興おこふるも禍わざはひとあるも皆みな
 神しん仏ぶつの心こころ意いふゆるおとれ虚うそ説せつふ惑まど弱じやくさうふ
 るあとい尤なほも甚しどしく自みづから其その身み体たいを艱い苦くせ
 し。又また数かず日にち食じきと新あらたし痛いたを忍しのび或あるる神しん仏ぶつのた
 めは死しまると善よしと一いつ或あるる女おんな子こ女によと以もつて儀ぎ
 粧まゆみとす。之これを安やす額がくとりし大おほ河がわふ投な込こ大おほ魚いさな
 の食まふ供まがして幸さい福ふくを禱いたり。或あるハ此こゝろ大おほ河がわふ身み

と授て死をも名考ら。かきくは復び福考の家
お生る、振との説を信ず。自ら牙を授て死
をも名考者甚と多し。まこと夫病死する村に、其妻
自ら火の中へ飛込て生るが、焚死ぬを尋
や、其の言は最も悪風ぬし。天道も背くは
甚し。たを此故近來英國の政府より命令を出
し、之を禁ずとり人ども、固有の陋習を違
ひ深き今め全く改められと改る事なりしり

○日本の男子若年お至とは前髪を剃落し
て奴とあり。余髪を結ぶ。支那の男子は貴族
とかく皆頭髪を剃落し頂上は少許との出
し、これを三つは組む。背後へ垂れ其長きこ
と足の中央へ至る。且貴人は爪を延し一
寸余乃長さよ至るを此あり。○亞細亞洲の
島嶼中へ蘇門答刺といふ島あり。此島の婦
人ら鼻の低きを美人とす。ゆゑお女子を産

人婦の島ラタモス



支那の男子



日本の子



る^まと^らに^ら其^の鼻^をと^り壓^すて^して^は平^た低^ひふ^るを^す海^のと^り弊^の風^をと^りら^る也^一

○支那の内廣東と稱せむ都府は廣東河と
 り人る大河の北岸に傍て市街は丘陵小連
 り。其景色頗る佳なり。狀如辺に住居せる人
 民百万人余あれども其内三十万余は皆船
 住居を陸上は住居を許さず。又一奇法
 とりゆべし。其船數四万ふ下らず其大なる
 船は三十間余の長あり。各船は皆一家を
 たり。一族卑僕を栖息する所あり。草花

支那の内
 船住居の
 有様
 但富家
 乃畝



樹竹の類あり。鶏犬豕羊ふ玉るまで皆あし
ごとく船の中ふ備ふ。又往來する處る舟を
編列す。道路とあり。茶物を賣ふ店あり。実
ふ一部の市街を水上よりなるを。如く舩舟住
居のそける水上に生れ。おれ上ふ長ち終
身陸地を踏むとて死るもの幾万人あるを
あしとばしりふ

○まゝ奇異なる悪風とありつべまる。支那の

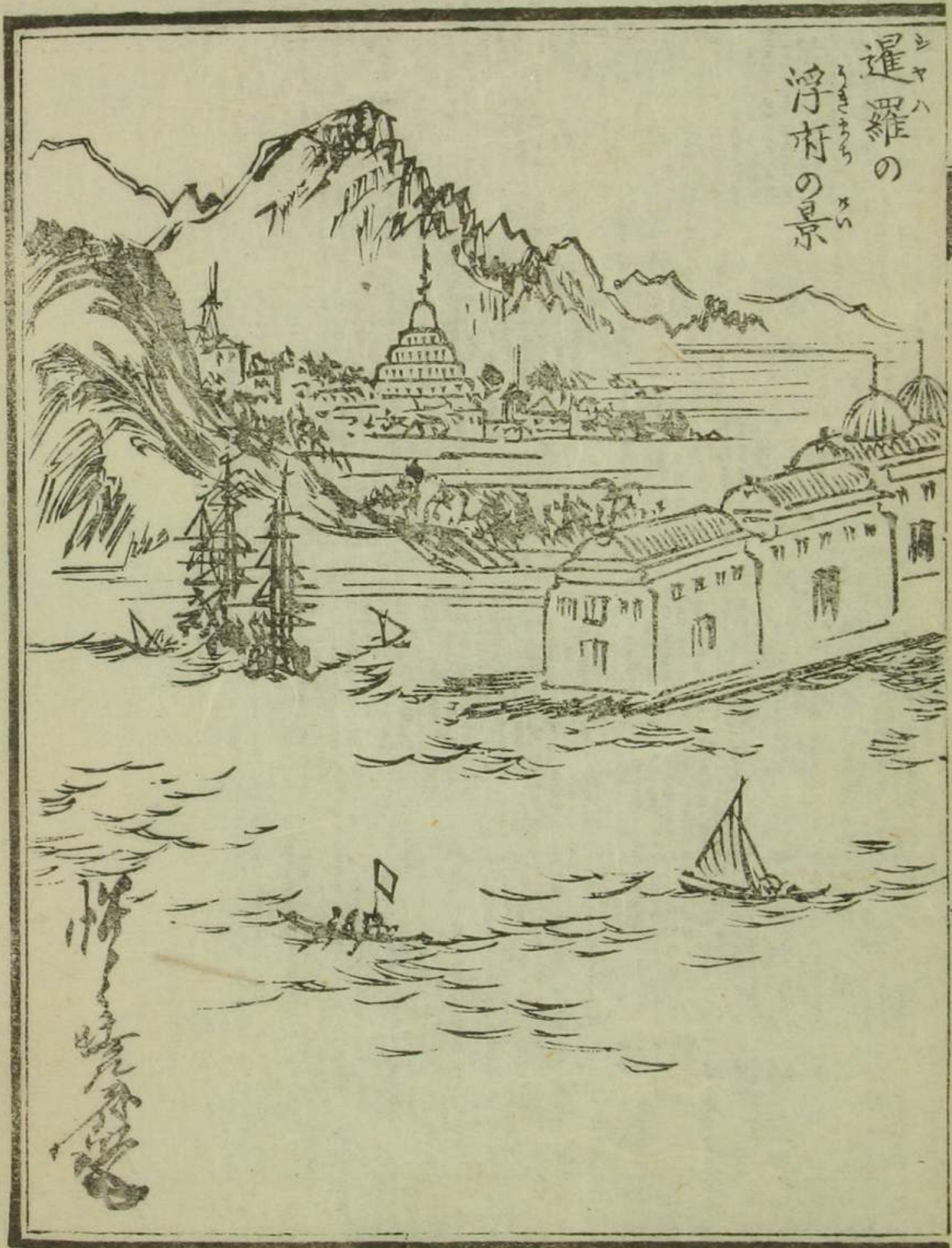
らちふ。西藏とあり。國あり。此の人民は兄
弟数人して一婦を娶り。ともお之を妻と
るを一般とす。○は支那のらち。小佛加里
とあり。野にあり。一夫とて衆婦を娶るを美
中と。但し其婦を貴ふあり。一人は付金百兩
余の身受金と掛ふ。故に宛てる時。まこと
他人ふ羨望するも好む。其女の容貌は甚ど
美麗なり。耳に金銀五采の環と穿つ。其長

さ六七寸、ゆく人、小嫁たるらに、紅と赤色
小森るを、礼とせせりし

○亞細亞洲後印度のららふ。暹羅とりし國
あり。人数る三百万余もありて、隨分繁昌の
國あり。岷谷の首府と曼谷とりし。國王の住
所を、湄南とりし。大河の口あり。野市街
半から河の預りあり。れども、半から河の上
小筏と出り。其上に家を建て、水上に住居す。

故に家は潮の差るるを、上下に流
れ家の周囲あり。大船数艘、碇をかりし。とも
小流動す。実より奇とりし。舟。岷水上の家屋
る。皆平家をれども、奇麗な軒をあり。人見世
をわたり、葺物を高く。又景色よ。地、小椽側
と差出し。小船をつぎ。家の前の、小舟ある
河を、舟の往来あり。大小の船艦、陸續
として、絶るま。実より世界中、小珍なり。き

暹羅の浮舟の景



暹羅の浮舟

暹羅の男子



全婦人



処あり。尚此事を萬國奇談
 とりし書みよ一ければ去
 とふ畧す○又此國の田舎
 の風俗も他と比ぶれば大
 ひみ卑陋く半身を裸躰小
 し歩行ふる跣足を常とす。
 ほと男女とも皆前頭より
 頂まを断髪す。兩鬢より

り後乃方を剥去す。其容貌実小奇あり。まこと
他必の人此煙草を用る。如く擯榔の実を
嚙む。小より口唇子を赤黒し。甚だ不潔
あり。又必内一般小人を賣買し。海と之を終
身買切りて。牛馬の如く使ふの惡風あり
○西洋各國同化の風あり。貴賤上下の差
別至く嚴し。一國縉紳の人。亦も平
生を獨りて歩む。又必の公法を犯す。採乃

あとの如きは。平人の如く訟庭に呼出され。若
の鞠問を受くる。あつ平人は異るとや。多
○海と平家の娘。或は嫁婦をとりて。其必の
女王と同名なる者甚だ多けれど。敢て之
を妨ぐる者あり。之は反し。亞細亞洲のう
ち同化を被りざる者。殊に緬甸より。國
柄より。其刑法甚だ嚴し。若し誤つて必
王の名を呼ぶ。或は之を書く。罰のあつられ

は残酷き死刑の処す。其風俗甚ど賤陋く且
男女裸躰を常とし恥を考ふがらふ似たり
近年英國と戦つて大ひに敗れたれども未だ
其旧習を變革せざるを知らず。まこと頑愚
なり。

○亞細亞洲のうち亞拉比亞とりの國を日
輪の真下ふ所つる季候尤もあつく。国内は
大抵數百里の沙漠にて草木の生じざる處も

ふく。風小由て砂波を起す。道路の標的とし
なきも此もたゞざれば。此辺を旅行する者
は駱駝といふ獸を駕り數人隊を組む。磁針
と以て方角を定むること。調度大洋中を航
するが如く。此處は住居も老る大抵いまだ
閑けざる野民もてみま定まりたる住家も
なく。駱駝も食物家屋もどより。諸道具を駕
て彼處。此處と水草の在る方と索矢を四方

小轉移先
 小幕と張
 りて住居
 蝮とやうり
 を干物とな
 して食物
 供ふ且虫
 の土民を盗



亜非利加人
 水草の河
 幕を張りて
 宿する景

賊と業として。他邦の民を襲ひ。或る旅人を
 掠むるを此多し。故小虫処を旅する人る盗
 賊を恐きて。おとほ数人隊を組きて行く
 を常とす。○此沙漠を旅するに其都合小
 より。五日も十日も水草ふ出遇ざるあつた
 りて牛馬ふこるあつた。ず渴死すなれども
 天の恵とあり。此辺には駱駝多し。此駱駝
 数日の間飲ず食はずしてよく。

故小沙漠
 中め月無
 て叶とぬ
 獣ふて其
 早きこや
 通例一日
 小八十里
 より百里



駱駝
 重荷と
 駕せる畜

余と行く由て駱駝を沙漠中の舟とりし
 ○世めは人民の風習容貌等もいろく有り
 て奇なるあときき中めも北亜米利加の
 極北の方北極小近き辺に住居おさる人民
 を「イスクイモウス」とりし。一体此辺る世界
 中めを一とん寒き処めてなろく人間の住
 居も出来がごとく処るれども。天の直ととや
 云らん。こ此辺るてハ獸類もど多きゆる人

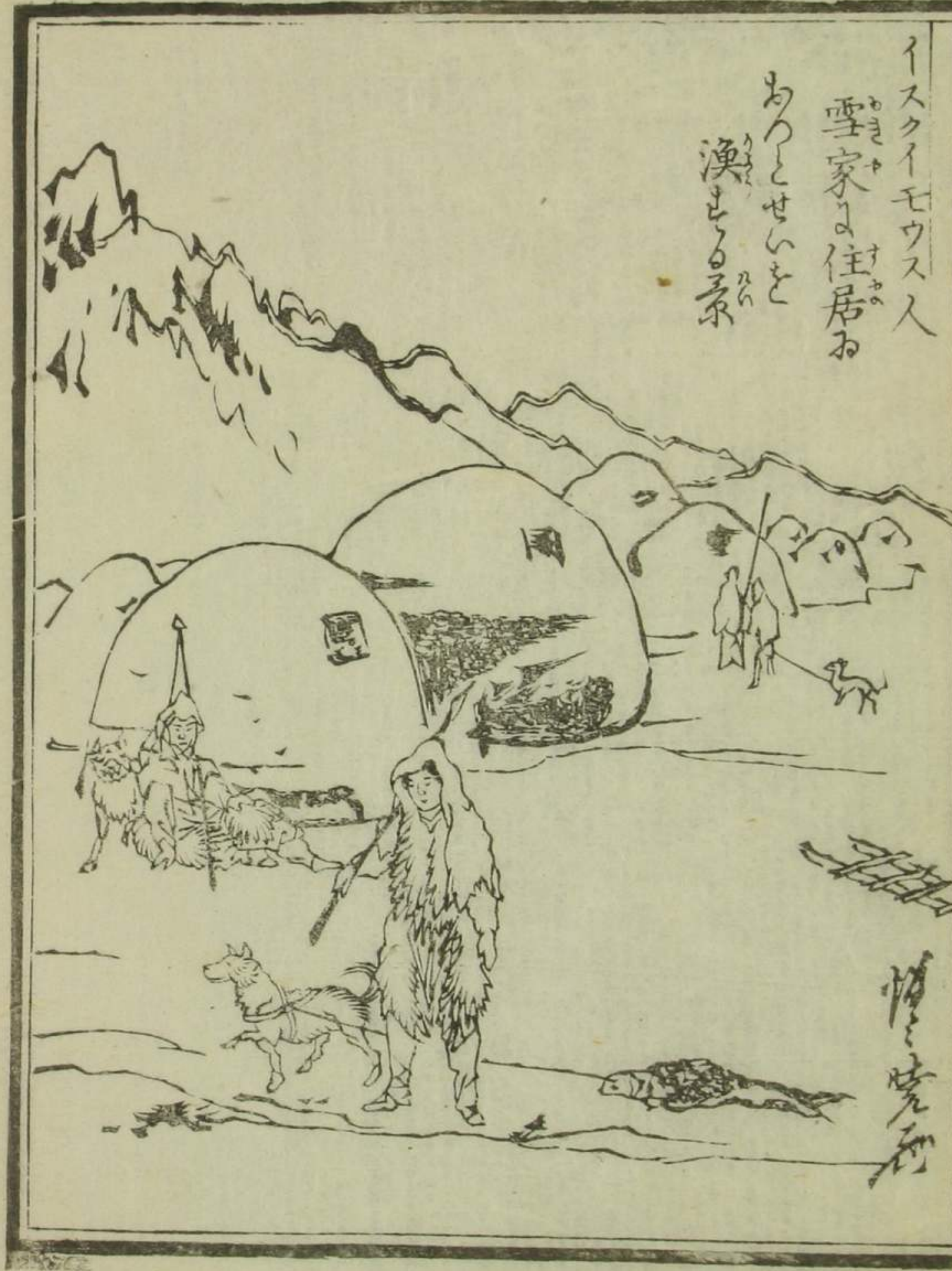
民名獸を殺し其肉を食して腹中を何々
 欠其毛皮と頭より足まで被りて寒を凌ぐ
 故に初め之を見れば恰も人間ふ毛の生
 たるが
 ぶくく。
 其容貌
 実小奇
 あり。又

イスクイモウスといふ亞米利加
 北極辺に住居ふ
 人民の番



其辺も夏短く冬長く殊に冬の間は雪多く
 して出る事も出来がたき故に夏のうち小獣
 魚などを捕り集め之を干物として冬は向
 へば雪を少く作りたる小屋のうち小籠籠る。
 其小屋は川に流れて来る樹を拾ひ集め之を
 地中へさしこめて丸き家の形を作りその
 外周囲小雪を塗り付て以て塗の如く風雨
 を凌ぐ其の雪家の一方小口を穿ち雪の蓋

イスクイモウス人
 雪家に住居お
 あつとせいと
 渙とる景



雪家

と閑閑して人民あつとより入出す。冬の間も
 斯く人民一所小相集りて住居ふとりへど
 も春ふ玉れば皆散乱して近所の島々ふ至
 り。魚渙と業とす。実小之等る人間のうららに
 下等あり

尚亜非利加島く極の人民ふ玉とる実よ
 奇るる夏多けれども皆二編ふ出すへー
 珍奇物語初編下 終

一 珍奇物語

二 初編出版
續出

一 日用究理物語

二 初編出版
續出

一 繪本地理物語

初編近出

一 通俗天文夜話

全

一 萬國自慢

全

萬國名所

野原新三郎

官許

東江樓藏版

不許
翻刻



武州忍山鳥

原田清太郎

東京芝神明前

和泉屋市兵衛

全 神田御成道

紀伊國屋徳藏

全 西國廣小路

大黒屋平吉

發

兌

